

# フェローシップ・ニュース NO.22

## 日本初のドラッグコート創設の提案

絶賛発売中！！



定価 2,625円(税込) 日本評論社 最寄の書店でお買い求めください！  
(アパリでは取り扱いはしていません)

「薬物乱用・依存者」に対する厳罰主義では問題解決はできない。アメリカの経験に学び、司法と医療と福祉のバランスがとれた薬物問題対応システムとしての「薬物専門裁判所」を提案する。本書の執筆者5名のうち3名は、アパリの副理事長(石塚伸一)、事務局長(尾田真言)、研究員(嶋根卓也)です。目次は次ページのとおりです。

特定非営利活動法人  
アジア太平洋地域アディクション研究所

発行日  
2007年5月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所(Asia-Pacific Addiction Research Institute)の略称です。  
全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

### 目次：

ドラッグ・コート本出版報告・・・尾田	1
TC研修会報告・・・尾田	2
ステップ講座・・・ヒロシ	3
フェローシップスキー 軽井沢、なんちゃって アノニマス劇場・・・サム	5
入寮者からのメッセージ・・・ゆう	6
アパリからのお願い	7
アパリからのお知らせ	8

近藤恒夫が国会に参考人として呼ばれました -4月27日(金)

衆議院法務委員会で更生保護法立法の審議の席に理事長近藤恒夫が参考人として呼ばれ、約17分意見を述べ、議員からの質問にも答えています。この模様を全てビデオで見ることが出来ます。アパリのホームページから衆議院TVへリンクが張ってありますのでぜひご覧ください。

<目次>

はじめに～わたしたちは、何故、ドラッグ・コートにこだわるのか？～ / 石塚伸一
第1章 日本の薬物対策の現状と課題
第1節 日本の薬物対策の悲劇 / 石塚伸一
第2節 日本の薬物問題の現状 / 丸山泰弘
第3節 薬物対策モデルの再検討 / 石塚伸一
第4節 新しいダイバージョンの必要性和可能性 / 石塚伸一
第2章 アメリカの薬物対策～ドラッグ・コート～
第1節 ドラッグ・コート前史～アメリカにおける薬物政策の変遷～ / 森村たまき
第2節 ドラッグ・コート制度 / 尾田真言
第3節 ドラッグ・コートの実態調査 / 森村たまき・尾田真言・石塚伸一・丸山泰弘
第4節 ドラッグ・コートの司法モデル / 森村たまき
第3章 日本版ドラッグ・コートの提案～新たな改革の可能性～
第1節 処遇をめぐる爽やかな風(1)～ダルク～ / 嶋根卓也
第2節 処遇をめぐる爽やかな風(2)～アパリ～ / 尾田真言
第3節 薬物対策とエビデンス・ベイスト・ポリシー(科学的根拠に基づく政策) / 嶋根卓也
第4節 薬物対策とコスト・ベネフィット(対費用効果)～バランスのとれた薬物対策～ / 石塚伸一

あとがき / 石塚伸一

随所にコラム・用語解説「ダルクとユタ」、「文学と薬物」、「覚せい剤を作った長井博士」、「乱用・依存・中毒という言葉」、「ダメ。ゼッタイ。だけではゼッタイ。ダメ。」、「治療共同体」、「被害者なき犯罪」、「プロポジション36」など。

ドラッグ・コート・キャラバン 『日本版ドラッグ・コート』の出版を機に、執筆者たちは日本各地で公演活動を行っていきます。第1回目は、平成19年4月6日(金)の午後、日弁連の「保釈・勾留改革等非拘禁化に関するワーキンググループにおける薬物依存者の社会内処遇に関する勉強会」において、石塚副理事長と尾田事務局長が、「アメリカのドラッグ・コート、アパリとダルクの提供する薬物依存症回復プログラム」という演題で報告しました。

「デイトップ」TC(治療共同体)研修会

報告：尾田真言

2007年3月24日、国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部内の治療共同体研究会(代表 和田清医師)が、秋葉原ダイビルにおいて、「治療共同体とは何か、その思想、構造、戦略と可能性」と題する公開講座を開催した。講師は、ニューヨーク市にあるDAYTOP International Inc.(デイトップ・インターナショナル)のアロイシウス・ジョセフ氏(Aloysius Joseph、以下、AJと呼ぶ)で、アパリや全国のダルクからも多数のスタッフが参加した。その前日には、日本ダルク本部でAJによるリラプス・プリベンションをテーマとするセッションが開催されたり、本公開講座の後では、大阪のフリーダムでも講演会が開かれた。

AJからは以下のような興味深い話を聞いた。

世界中のほとんどの治療共同体(Therapeutic Community、以下、TCという)は宗教関係者が始めたものであるが、一部は医療関係者が始めたものであるという。

TCのコンセプトは、飢えた子どもに魚を与えるのではなく、魚のとり方を与えるものである。

宗教と霊的なスピリチュアリティは違う。信心深いということがスピリチュアルであるとは限らない。

多く的人是痛みをうつとして認識する。

依存症者は赤ん坊と一緒に責任を取らない。自分自身の人生が受け入れられないので、自分には助けが必要だということを受容できない。

「自分自身と他者のために生きる者となる」という哲学が大切であり、DAYTOPでは毎朝これを唱えている。

感情的になっているときには冷静な判断ができない。

多くの方がリラプスするのはストレス解消方法を知らないからである。小さなストレスに対してですらあきらめてしまう。スタッフはコミュニティーの中の手本にならなければいけない。スタッフがきちんとしていることでクライアントがそれを真似たいと思うようになるのである。

AJ お別れ会 3月28日

AJがアメリカに帰国する前夜に有志で東京八重洲の居酒屋で送別会が開かれました。アパリからは3名が参加し、終始和やかで話題も尽きず楽しいひと時を過ごすことができました。またの再会を約束して別れました。日本についてのレポートを作成するというので、日本の薬物事犯状況を聞かれるなど、その後AJとはメールでのやり取りが続いています。



デイトップ研修風景



東京・八重洲の居酒屋にてAJのお別れ会。中央がAJ。



八重洲富士屋ホテルの前で。左から3番目がAJ。

# 家族教室 ステップ講座より 3/19

テーマ「ステップ1, 2, 3」

日本ダルクスタッフ・ヒロシ

僕は東北の田舎町に昭和43年に生まれました。どんな場所かと言いますと、隣の家まで200メートルはありますね。夏になると熊が出たと騒ぎます。そんな場所でした。目を開けたときに、目を開けたときっていても、ほとんど子どもの頃の記憶は僕もあるわけもなく、知っていることは生後10ヶ月のときに母親がいなくなったそうです。物心ついた時はばあさま（祖母）と二人の生活でした。時々帰ってくる父親は - 父親だと言われるのですが、そんなことを言われても困るわけですよ。目を開けたときにはばあさまと二人ですから。「パパが帰ってきたよ」って言われても困るのですけどね。時々帰ってきました。4つのときに父親は交通事故で死にました。棺桶の中に入って帰ってきました。寂しさ悲しさは1つありませんでした。何故なら、父親だとかパパだとかママだとか、そんなことは私にはわかりません。後に知るのですけどね、大人になってからね。父親は25で死にましたけどね、結婚と離婚は4回ありましたね。母親も僕を産んだあとに、結婚離婚を繰り返してね。手元に最後3人の子どもを残して死んだみたいですけど。

4つから僕とばあさまの暮らし、その段階で父も母もいませんでした。そこにおじさんおばさんがはいつてきてね、おじいちゃんが帰ってきて、一気に4つから大家族になるのですね。その頃はまあ幸せでした。何も不安は思っていませんでした。優しいばあさまがそばにいて守ってくれていましたから。何の不安もなかったし、何の苦痛もありませんでした。4つから大家族の生活が始まって、家の中で殴られ始めたのはその頃からですね。他人のおじさんがある日酒を飲んでね。僕を手招きするものですから、ついていったら陰でパチパチパチとはいつたのですね。最初は皆の前では殴りませんでした。陰で僕を殴っていましたね。その殴る蹴るが収まるまでには、僕の体がおじさんの大きさと逆転して、僕が手に刃物持つ日まで続いたので、恥ずかしい話ですが、16くらいまで続いたのでですね。足が上がり始めたのは小学校3年生4年生くらいかな。僕が朝、おじさんがまた殴り始めたのでね、学校行かなきゃいけないから、海老反りになって頭をガードしたら、初めて足があがりました。よく家で言われ続けたのは「お前を育てる責任は俺達にない」「お袋が生きているのだから出ていけ」「いう事を聞かないなら出て行け」「口答えをするなら出て行け」「お前は施設に預けられて可哀想な人生を送るはずだったのに、俺達が預かって育てて俺達に感謝しろ」それを家の中で毎日毎夜いつもいわれ続けたことだから、こういうテーブルで、皆でご飯を食べるのがとても嫌でしたね。だけど、時々出て行くのですね、小学生の俺は。あまりの苦痛に耐えられなくて。だけど小学生だったものでね、出て行くっていつてもどこにも行く場所がないのですね。だから、周り近所が田んぼなので田んぼの隅で寝ているのですね。おまわりが来て起こされるのですよ。また、近所のおじさんおばさんにも起こされるのです。「帰りな」ってね。そりゃそうですよね。月明かりが出て8時9時ですから。帰りたくないわけです。「帰って頭下げて入れてもらいな」って。悔しかったですね。行く場所がない。出て行きたくても行く所がない。毎日がそんなことだったので、でも、それが僕は当たり前前の人生だと思っていました。自分を納得させるためには「俺が悪いのだから」ってことを自分で納得させるしかなかったですよ。手をあげるおじさんが悪いのではなくて俺が悪いのだからね。納得させるしかなかったですよ。子どもってというのはよくできたもので、その場所で生きていくために自分を納得させる方法をよく見つけるのです。ただ、僕は今でも覚えているのは、子どもってというのは殴られた、蹴られた、怒られたっていうと、やめてくれる方法は2つあるのです。1つは泣くっていうことですね。ワンワンと泣いてね、泣くと大概の大人はやめてくれるのです。もう1つは謝るっていうことですね。簡単に。ごめんなさいを言う。だけど、小学校の僕はそれをしなかったのですね。

「何で」っていうと、まず、謝らないから続くのですよ。殴る蹴るが。頭さげたくないです。悔しいから。今度泣くのです。黙っていても悲しいから泣いていうのは出るのですよ。でも、子どもの俺は奥歯をかみ締めて、こういうこと思い描けば涙が止まるってツボを知るので。そこまでして泣きたくないのですね。「何で」っていうと、それは、泣いたらこいつらもっと喜ぶって思うのです。泣いたらこいつらもっと喜ぶ。だから俺は泣くわけにはいかん。泣いたらこいつら喜ぶ。こいつら喜ばせるわけにはいかんってね。だから、自分でコツを覚えるのです。泣かないツボを。そのツボのせいでしょけども、36年間、僕がダルクとNAにきて人生がボロボロになってたどり着いたところに来るまでの36年間、俺は泣きませんでした。泣かないツボを知っていて、いつも奥歯をかみ締める癖がついていましたね。今やっと人並みに泣けるようになりましたけどね。それが僕の家の中の出来事です。家の中で抑制されているもですから、学校に行けば人をイジメます。お金も持ってこさせます。「悪い子だ、悪い子だ」とよく言われました。

中学生から不良になり始めるのだけでも、僕ら子どもの頃っていうのは、勉強ができてスポーツが出来ること、この2つでよかったのですよ。あと素行態度がどう悪かろうがね、とりあえず勝負事はこの2つしかなかったのですね。僕は勉強ようしました。スポーツもよう出来ました。だけど、ここに今度は不良っていうのが重なってきてね。勉強の出来る奴らとぐれていく奴らと2つに別れるのですが、僕はどっちにも負けたくない。だから、不良もする、勉強もする、スポーツもする。大変でしたね。初めての薬物使用は16歳のときのシンナーでしたけど、本末転倒です。今でも思い出すのは。

高校は進学校に入ったものですからね、シンナーを吸いながら数学の因数分解を一生懸命勉強していた記憶がありますね。まるで漫画のような出来事なのだけど、だけど、それほど僕は誰にも負けたくない。何でも負けたくない。不良も負けたくないし、勉強も負けたくない。何も手放したくない。誰にも負けたくない。あの場所には戻りたくない。それが僕だったのですよ。16歳からシンナーが始まるのですけど、1年くらいでシンナーをやめることができました。1月15,16日、僕は大学入試を受けにいきました。ぐれながらも、不良しながらも、盗みでつかまりながらも、いろんな問題を抱えながらも、何とか大学受験日までしがみついて何とかたどり着くことができました。一時間目の国語のテスト問題を解答している最中に、僕は鉛筆を置いてね、その足でマージャン荘に行きました。路線から降りたかったということもあるのでしょうけど、あと、学力がそこまでついていかないうちからってこともあったらしくても。

「俺こんなことのために今まで必死に生きてきたわけじゃないのだ」っていう、そんな思いがあの日ありましたね。キャンパスから出て道中マージャン荘まで到着するまで歩いて約30分はね、初めて自由になったような気持ちになりましたね。楽になったような気持ちでしたし。道という道が冬ですから雪がありました。東北の雪国なんですね。ただキラキラと太陽の明かりが光ってましたね。それを覚えています。そして、僕はマージャン荘にいつてね、マージャン荘に座って、マージャンを打ったときに、目の前にいたのは指のない人たちばかりでしたね。そこがもしかして分岐点かもしれないし、分岐点じゃないかもしれない。ただわかりません。僕は今まで初めて階段からその日降りましたね。そこから紆余曲折しながら、やくざをやったりしながらも。子どもの頃の背景があるから、力とお金がすべてなのですよ。絶対的な力と絶対的なお金に執着するのですよ。それが僕の人生のテーマでした。

4月1日、町田カウンセラー主宰「ホープヒル」のステップセミナーでも同じ内容の体験談を話していただきました。

紙面の都合で一部を割愛させていただきました。

NAの12ステップより

- 1、薬物に対して無力を認める
- 2、ハイヤーパワーを信じる
- 3、ハイヤーパワーに委ねる

ハイヤーパワーとは：自分よりも偉大な力

「薬物依存」DVD販売中！

アパリが作成したDVDで、本人の体験談や、近藤恒夫の話が約30分間収められています。

学校での薬物乱用防止教育、行政の職員の研修で利用されています。

1枚 3,000円

FAX : 03-5830-1791  
メール: info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。

22から僕は、結婚をして子どもが生まれ、やくざも辞め、22から違う街に住んでいました。覚せい剤を初めて覚えました。友達の紹介でした。そこで初めて覚せい剤が始まります。22で覚せい剤をやったときに「これは」と思いました。楽になりました。とっても楽でした。嫌なこともすべて忘れられる。本当に快感でした。22から始まるのですけどね。23のときに初めて覚せい剤をやめるために、街、人、場所、環境、友達全部変えました。何故やめようと思ったかというのは、このままやり続けていたらいずれ大変なことになると薄々思っていたのですね。23のときに新たな場所にいきました。そこで仕事を始めました。仕事も順調にいきました。でも、また覚せい剤が始まります。今度は2回目です。25のときに、街、人、場所、また全部変えたのですね。今度は海を渡って札幌にいったのです。北海道。これ2回目です。このとき息子が生まれていましたから、子どもはもう二人いるのです。家族連れて行きました。覚せい剤止まったのです。そしたら、今度は子どもが死んじゃった。3番目の子どもが生まれて45日で死んじゃった。悲しみがあつたので、帰ってきました。地元に戻ってきたのですけど、覚せい剤やめてはいたのですよ。やめていた時間が3年間くらいあつたのです。そしたら、仕事も順調。努力もする。頑張る。昔の自分のようにお金と力を追いかける。その間、それこそ馬車馬のように働き、火の玉のごとく仕事をしました。そしたら28のとき会社を始めました。商売を。その時20人からの社員を引き連れてね。ある会社で僕は当時営業本部長をしていたのでね、そのまま会社の社員を連れて独立しただけなののですけどね。20人からの社員と皆で商売を始めたのですね。そして、株式会社を作って商売はじめて当たっちゃったのですね、それが。1ヶ月目の売り上げ今でも忘れません。初めて正確な数字言いますけど、8200万の売り上げ、ひと月の売り上げがあつたのですね。当たつたのですよ。その時におうちも買ってね。会社も大きくして、社員が最後100人くらいおつてね。東日本で支店が10ヶ所くらいあつたのです。わが世の春を謳歌していました。成功しました。お金も持った、力も持った。たった3年覚せい剤とまっただけなののですけどね。

ところがです。成功した。お金もある。家庭もある。子どもたちもいる。おうちも買った。車も何台も持っている。今日100万使っても明日困らない。今までのあの悲しい気持ち、あの悔しい気持ち、あの貧乏だった頃、あの虐げられた生活をばねにして今日まで生きてきたときには29ですよ。成功の絶頂期にいた僕のもう1つの感情は「死にたい」だった。皮肉ですよ。死にたい」だった。もう疲れ果てていました。その時にまた探したのは覚せい剤でした。夜眠れなかったから睡眠薬を飲んでいました。睡眠薬の乱用もしていました。ところが「死にたい」。死にたいけども何とかなりたい、それで覚せい剤を探しました。覚せい剤を探して体に4年ぶりにいれました。思いました。「やっぱりこれだ。これで何とかなる」って思いました。何でもありました。無いものはなかった。けど死にたいのですよ。埋まらないものがあつたのですね。どうしても埋まらない寂しさ侘しさ。自分の持っている生きる病があつたのだと思うのですね。それで覚せい剤を体にいれた。そしたら「これだ」なんですよ。「助かった。これで何とかなる」そう思っていました。それから覚せい剤の使用がまた始まり、ひどいときには、朝起きて精神安定剤デパス30錠飲む、覚せい剤を体にいれる。お昼また覚せい剤を体に入れる。デパス30錠飲む。そしてまた夜覚せい剤を打つ。そしてデパス30錠飲む。そこから夜飲みに行く。そして、お酒を飲み終わった後、どこの部屋に戻るか。その戻った場所で覚せい剤を打ち、最後に睡眠薬ハルシオン30錠飲んでまた眠るっていう、最後そういう生活ですよ。そんな暮らしを3ヶ月したらですね、僕の頭は狂い始めて。とうとう、スーパーウルトラスペシャルダイナミックアントニオクルクルパーになってしまいましたね。ただのクルクルパーじゃなくて強烈なクルクルパーです。なりました。それでも最後2回、僕は、街、場所、人を変えているのですよ。やめるために。いろんなものも獲得していった。社会、学校の先生や大人たちが教えてくれた家庭を持つ、奥さんを持つ、子どもを持つ、社会的成功を持つ、お金を持つ、財産を持つ、おうちを持つ。大概のものは全部しました。学校の先生が道德の時間やホームルームで教えてくれた教科書に書いてあることは全部やりました。頑張ることもしてきた。諦めたことは1度もなかったです。努力もしてきた。「頑張れ、頑張れ」って学校の先生や大人たちが言うから頑張ってきました。諦めたことは1度もない。「負けるな、負けるな」って後ろから要するに一生懸命大人たちが叩く。そして教えてくれた。だから、そう生きた。でも、駄目だった。それで最後にすべてを獲得したけれども、世の中で「これを得たらあなたは幸せになりますよ。これを得たらあなたは苦しまないですみますよ」、これを得たらっていうものは全部得てみました。でも、駄目なのです。どうしても覚せい剤がやめられないのですよ。睡眠薬も。街、場所、人も変えたけど駄目だった。

じゃあって、警察に飛び込みました。捕まって執行猶予もらってその時、社会的信用もなくなって、会社もなくして、商売もやめて全部なくなりました。これでやめられると思いました。これで3回目です。執行猶予もらって出てきました。2ヶ月でまた捕まりました。刑務所にこれで入れる。これ4回目です。これで何とかやめられるだろうって思いました。これでやめられる。刑務所まで行くのだ。警察に飛び込んで社会的信用を失くした。3回目、今度4回目刑務所にいける。やっといける。何とかなる。で、出てきました。3年刑務所つとめて。今度2週間で捕まりました。その2週間で捕まったとき、今度これから刑務所です。留置場の中で「もうやめなあかん」って思いました。「もうどうすることもできない」って初めて万歳したのは、この無力を第一ステップになったのは、ここですね。「もうどうにもならない」そして思ったのは「死のう」って思いました。もう刑務所でたら死のうと思いました。おかしいだろうって。あれほど、子どものとき裸で生まれ、目が覚めたら親がいなかった。友達が、同級生が持っているものを持っていなかった。理屈のわからないことで殴られ、蹴られてきた。負けたくない、何としても勝ち続ける。悔しい思いをしたくない。努力をした。すべて手に入れた。成功もした。けど、何でまた裸になる。と思うのですね。何で子どもが死んでしまう。何で家庭も家族も皆いなくなる。子どもたちはいない。女房とも離婚した。また、一人だ。今度は何も持っていない。今回の刑務所つとめたら死のうって。僕はその日決心しました。もうどうすることも出来ないのですよ。やめるための努力をした。やめるために必要だといわれる愛だ、家庭だ、家族だ、子どもだ、恋人だ、女房だ、おうちだ、財産だ、社会的信用だ、金だ。金だって半端じゃない金だって全部掴んだのにどうしてもやめられないのでしょうか。だから死ぬしかないじゃないですか。俺は人を殺したくない。最後は頭が狂ったし、よく記憶が飛ぶことも多くなったからね。

刑務所を2年間つとめていました。青森刑務所。不思議なものです。満期の4ヶ月前、お盆の時でした。名古屋の暴力団の組長がね「ヒロシ、この本読め」って投げたのが歌手の千葉マリアさんが書いた本で、息子さんがダルクの人なのですね。薬物依存の話が書いてありました。読んだ瞬間にね「ここに行ったら何とかなるかな。何とかしてもらわなきゃ困る。どうせ俺は死ぬつもりなのだ。ここに行ってみよう」とこう思いました。僕はすぐに保護司に手紙を書いてね。そして、平成16年12月14日満期で朝9時に青森刑務所を出されてね。そして、僕はダルクにいきました。その時の服装はあのジャンパーとこのジーパンです。今日もはいてきました。何でか？、というところだけ

## ロイ神父からの メッセージ DVD付き書籍 販売中！

『仲間になって  
くれてありがとう』

昨年他界したロイ神父が20年以上にわたりマック・ダルクを通して語ってくれた数々の貴重なメッセージと、彼の“仲間”からの手紙を綴った珠玉の一冊。日本における依存症リハビリ施設の歴史を知り、回復者たちの生の声を聞くことができる総数500ページを超える重厚な内容に加えて、ロイ神父のビデオメッセージが収録されたDVD付き。援助職の方、ご家族、当事者などさまざまな立場の方にとって必読のバイブル書です。一般の書店ではご購入できません。

定価 3,500円

FAX : 03-5830-1791

メール: info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。

もう刑務所を出てくるときに服装を僕に差し入れてくれる人ももういなかったのですね。つまり人間関係はもう終わっていたのですね。すべて。だから捕まったときの服を着たまま、捕まったこのジーパン上下を着て出てきました。今でも着ています。あの日あの時あの瞬間、俺は何だったか。どうだったか。どの状態にいたのだ。あの時の太陽は、あの時の空気の流れ、あの時の風は、あの時の俺の心、寂しさ、孤独、何もなかった時、青森刑務所を出た瞬間を俺は忘れないでいたいと思うのです。

僕は次の日仙台ダルクの前に立つのです。僕は、スタートは仙台ダルクだったのです。仙台ダルクの玄関の前に立ちます。この服を着たままね。出てきて仙台ダルクの玄関の前に立ちました。中から仙台ダルクの施設長Tが出てきました。僕を無条件にハグをしました。僕は涙が止まりません。涙がドンドンこぼれるのですね。2つの感情がありました。「これで薬との喧嘩が終わる」こう思ったのですね。もう1つ思ったことは「これで車輪が止まる」って思ったのです。ガラガラ回り続けてね。悪循環に歯車が噛み合っただけでガラガラ回り続ける。自分じゃ止めることができないこの歯車。生まれたときから始まったこのガラガラ回り続けるこの歯車がやっと止まる。こう思ったのです。根拠はないのですが、ただ、薬物依存者の刑務所を10年前につとめて出てきてダルクに繋がった、身長約180センチある年齢42歳の男の胸の中で俺は涙をこぼしながら思った感情なのです。その男は10年前に茨城県の筑波山中で覚せい剤を使い、頭が狂って、Tバックの女のパンティーを頭に巻いてですね、全裸で走り回って捕まった男なのですね。

俺はあの日から覚せい剤がとまっています。休んでいます。あの日から睡眠薬を休んでいます。36年間ガラガラと回り続けた車輪もとまっています。このステップの1、2、3をいろいろ言う人がいるのでしょ。でも、俺はあの日、もうどうにもできなかつた。だから、神様がくれた無力でした。それがステップ1。ステップ2、信じる。NAとダルクがあり、自助グループのミーティングがあります。もう神様がいろいろいまいがどうでもいい。取り敢えずいることにしてそこにしがみつかないで生きていけないうというレベルだったのですね。だから、そのミーティング場に行ったら10人くらいいましたけど、その会場がね、暴力団がやっていると、詐欺師の集団がやっていると、ペテン師がやっていると、どんないかがわしい宗教団体がやっていると俺にはどうでもよかった。それでもいいからしがみつきたかたというレベルなのですよ。もう何もかも失った。もう何も無い。そういうレベルでした。だから、信じるも信じないもありません。信じるしかなかったのですよ。これがステップ2でした。そして、ステップ3のお任せは、いいじゃないですか、もらい物の人生ですもの。ダルクに来たときに、ダルクで1年プログラムをやって東京に来ました。その時に僕に「こう生きたら」と言った人間は、ボロボロのジーパンを履いてね、ボロボロのズックを履いて、銭にもならないことを必死に動き回ってやっている奴が目の前にいました。俺は何年か前に、力と金だけを追って来ました。ベンツに乗って、ダブルのスーツを着、ロレックスをはめて……。でもね、思ったのですね。こいつらを信じなきゃ、こいつらに任せてみなきゃ、俺はこの先誰も信じられないだろうと。僕の場合は、さっき言った通りにステップはそういうレベルでしたから。「もういい。こいつらに任せてみよう」と。それが俺のステップ3でしたね。

俺は今東京にいて、ダルクで安い給料だけ、仲間の手伝い、仲間の薬をやめる手伝いをさせてもらっています。近藤恒夫のいる場所に僕は今いますからね。ダルクの水撒きをしながら「俺は生きていて良かったな」と思ったのです。僕の命が助かったのは、神様が僕の人生を木っ端微塵に、それも中途半端でなくてね、とことん木っ端微塵にめちゃめちゃにどうすることもできないところまで僕を追い詰めてくれたからです。死ぬしかありませんでした。もう何もかも残っていない、どうしようもなくボロボロにしてくれたから、僕は命が助かって今日ここに座っています。

覚せい剤と出会わなければ死んでいました。でも、覚せい剤をやり続けても僕は死んでいました。僕は睡眠薬と出会わなければ死んでいました。だけど、睡眠薬をやり続けても死んでいました。そして、NAに来なければ僕は死んでいました。だけど、死ぬところまで僕を追い込んだから僕は助かりました。だから、神様はいます。間違いなくあの断崖絶壁から俺は落ちました。落ちたけど、何故か知らないけど、死ぬ直前でヒューッと戻されました。そして閻魔大王がいうのですね。「あんたどうする？」俺は警察に捕まって刑務所にいったわけじゃないのですね。閻魔大王につかまって「あんたどうする？」っていわれた人です。

だから、もらいものの人生なのです。だから、銭にもならないことも何とかこうしていられます。俺は助けられました。神様にも助けられ、NAの自助グループにも助けられ、そして、仲間にも助けられ、ダルクに助けられました。人生のこの不思議な道理は多分わからないでしょう。多くの方はわかるわけがないです。でも、僕はこの体で経験しました。38年かけて。捨てたものじゃないなって思っています。

僕にとってのステップ1、2、3。認める、信じる、委ねるはそういうことです。今日はどうもありがとうございました。

### 長野ダルクとのフェローシップスキー IN 軽井沢 報告：サム

アパリ東京本部のメンバーと長野ダルクの仲間たちと軽井沢にスキーツアーに行ってきました。

昨年は白樺湖に1泊2日で行きましたが、今年は日帰りで軽井沢プリンスの人工スキー場にしました。3月も末になりもう今シーズンも終わりという頃で、帰りは大渋滞に巻き込まれましたが、長野ダルク施設長(ゴウ)や2人の仲間と合流し充分滑ることができました。天気もよく、浅間山がとてもきれいで浅間山に向かって滑っていくという感じよりは下りていくといった感じでしたが、やはり大自然の中でのスポーツはGoodです。参加した仲間の中にはアパリの保釈プログラムを受講中で、横浜拘置所を出て長野ダルクに入寮している人もいました。「入寮生活が楽しい」と言っていました。施設長(ゴウ)としては「困った事だ。入寮生活はやってられないものでない」と言っていました。皆、少し日焼けしていました。



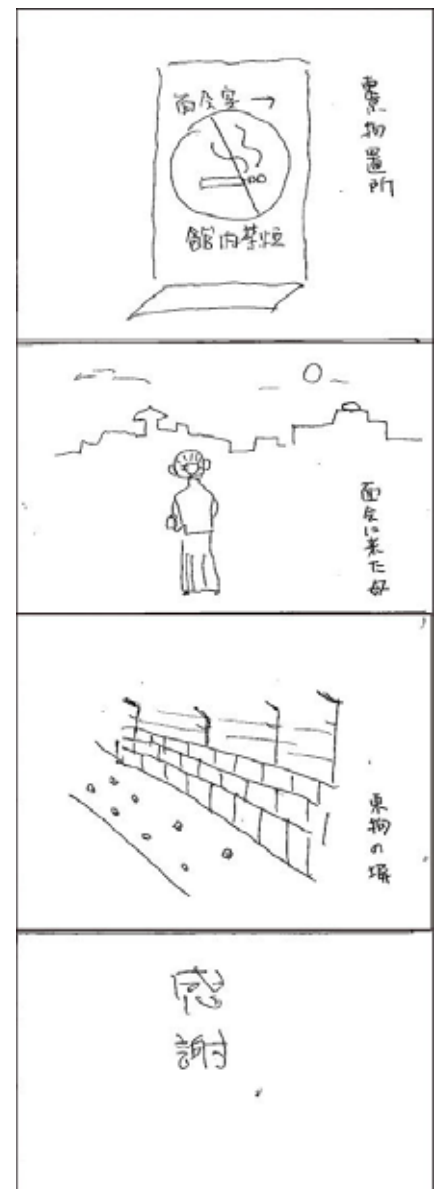
中央が施設長のゴウさん、左が保釈プログラム中のMさん

## サムの なんちゃってアニメス劇場 (略してNA劇場)

「遠くでリハビリ」



「母の愛」



## アウェイクニグハウス 入寮者からのメッセージ

### 「僕は薬物依存者だ！」

ゆう 20代

薬物依存を自分の中に受け入れるのに僕は12年かかった。12年とは僕が薬物を使い続けた期間だ。もしかしたらこの12年間という長い期間を掛けて薬物依存症になったのかもしれないけど、とにかくこの12年間には色々な事があった。警察にも何度か捕まったし、もちろん刑務所にも2度行った。

始まりは確か中学3年生の時、仲間内でクスリが出回ったんだ。僕は何の抵抗もなくクスリに手を出した。もちろん自分の意思でだ。あのころはスレて悪さをして薬物を使い人に暴力を振るうような奴だった。それがカッコイイと思っていた。クスリは僕たちの遊びのツールだったんだ。すごく楽しかったんだ。どんどんクスリはエスカレートした。手に入る薬物は何でもやった。親を脅してお金を手に入れた。弱い者から力づくでお金を手に入れた。ありとあらゆる方法でお金を手に入れ、薬物を手に入れた。クスリを追い求める生活はどんどん僕を駄目にしていった。遊びで始めたクスリはもう僕の生活の一部になっていた。正直辛かったし、苦しかった。何度も止めようとした。そのたびクスリは止まるんだ。数ヶ月～1年とかね。でもまた再使用が始まった。短い間に僕の人生はがらっと変わった気がする。そこから振り落とされないように何とかしがみついているのがやっとだったんだ。すごく怯えていたし、恐くてたまらなかった。そんな時他人に説明なんて出来ない。世界からずり落ちていくような気がした。だから僕は解ってもらいたかったんだ。理屈やら説明やらそんなものは抜きで。いちいち説明しなくても、解かしてもらいたかったんだと思う。とくに僕が大切にしている友達や恋人にはさ。

分かってもらいたかった中に家族があったのかは正直わからない。その頃の僕には家族でいる為の何かが抜けていたんだ。うまくコミュニケーションがとれる仲ではなかったんだ。僕は家族が嫌いだし、家族も僕を嫌っていたんだ。分かり合えないと思っていたし、何よりもそう感じていた。家族の中にいると一人を感じたんだ。僕は人の中で一人を感じるよりも一人で孤独を感じている方が性に合っていたんだ。僕はどんどん一人になっていった。表面的には友達も恋人もいた。本当に仲のいい友達だったし心から愛した女性もいた。でも何か違った。何か違和感があった。1回目の刑務所を出てきてから、一時期何もかもがうまく進みだしたように思えた。家族との何かもそこにはあった気もする。仕事もあった。でも、駄目だった。昔から抱えていた違和感は僕の中で大きくなっていった。

どうにもならなくなった。僕はクリニック等に行き睡眠薬や安定剤をもらう様になり、仕事にも身が入らなくなった。父親と話し合い自分で決めて、借金までして始めた仕事だ。その仕事をほったらかして、友達に誘われていわゆる闇金融にも手を出した。お金はあったけどどうにもならなくなり睡眠薬や安定剤だけではなく刑務所で知り合った仲間とまたクスリを始めたんだ。あっという間に警察に捕まった。そして何もかも失った。家族もいない。友達もいない。恋人もいない。仕事さえない。人生が無に感じた。失われたものがあまりにも多く僕は疲れすぎていた。そんな無力感の中で自分の意識が少しずつ失われていった。留置場で手首を噛んで死のうとしたんだ。死ぬことは出来なかったけどね。

当時付き合っていた女性に「あなたは薬物依存者だから刑務所から出て来たら薬物依存回復施設に入って」と言われたが受け入れられなかった。何もかもが受け入れられなかった。でも、「あなたが回復しないかぎり私達に未来は無い」の、彼女の一言で少しだけ希望が持てた。希望を持った時、いろいろなものが見えてきた。自分はヤク中で、さんざん人に対して自分に対してひどい事をしてきたと。自分を大切にしていなかったと。その日から、自分自身を隠しながら生きているのは嫌だと思ったんだ。それまでは多分、散々なことをしてきたけど自分自身に対していい気分だったというのは、とにかくクスリを使っていても社会にいればいいんだからとっていたからで、自分を変えようとか、心を開こうとか思っていたからではないんだ。だからそのままだったらこれまでと同じ問題にぶつかって自分の中で壁を作って、そこでまた行き詰って埋もれていたと思う。そう思ったら色々なものが素直に受け止められたんだ。そこから僕の薬物からの回復が始まった。

刑務所でも施設からの通信教育を自分なりに真剣に取り組んだ。周りの目は気にならなかった。ある日から自分の考えていること、今までしてきたことなどをノートに書いていろいろなことについて真剣に考えるようになったんだ。多分それが僕にとってのヒーリングのプロセスになっているんだと思う。だけど自分を癒すということとはつまり、自分がこれまで傷ついた傷一つ一つと向かい合うということで、だからある時は僕の中の最初の彼女が僕の心を引き裂いて傷ついたときのことと向き合わなくちゃいけなかったし、それから何年かして僕の親友が何も言わずに自殺したことと向き合わなくちゃいけなかった。つまりそうやって、僕が今こういう人間である理由、人生において僕の人間関係のあり方を決定づけてきたいろいろな出来事と一つ一つそうやって向き合わなくちゃいけなかったんだ。そのせいで僕は人に対して恐怖心を抱くようになって、自分自身の殻にこもることになってしまった。その理由や出来事、若かった頃に僕を傷つけた人々とね。それでゆっくりだけどそうやって一つ一つの出来事と向き合って彼らがどうしてそんな風に接したのかを一生懸命理解するようにして、僕の自己中心的な観点から見て彼らを非難するんじゃなくて、どうして僕の中の最初の彼女があんな風に思ったのかを理解するようにして、どうして僕の親友があんな行動をとったのかを理解するようにして、自分の中でもう大丈夫なんだと思えるように頑張ったんだ。彼らを許せるし、彼らを愛せるし、そして自分自身を愛せるはずだったんだ。しかも人に傷つけられた時に僕が当時殻に閉じこもってクスリを使ったことは、健全なリアクションだったって思えるようにもなった。そうやって一つ一つ自分は大丈夫なんだって

**アパリ発行**  
**「Born・Again (ボーン・アゲイン)」**  
**体験談 販売中!**

2005年5月に第2版が発売になりました。体験談が13人分収められています。

アパリではこの本を拘置所や刑務所にいる人の差し入れ用として使っています。

1冊 1,500円  
(会員価格:1,000円)

お申込はメールかファックスで  
FAX : 03-5830-1791  
メール : info@apari.jp  
ご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。

**スタッフから :**

ゆうさんは受刑中にアパリの通信教育を受講し、その受講者で初めて出所してきた第一号の人です。

昨年11月のある日、F刑務所に朝9時に迎えに行き、大田区の福祉事務所を経由し、前橋の保護観察所へ向かい、夜に藤岡の施設に到着しました。出所日の長い一日でした。

思えば自分自身をさらけ出すことが出来たんだ。だけどそうやって辛かった過去と一つ一つ向き合うのはすごくヘビーですごく苦痛だよ。それは今でも刑務所を出て施設に来てからも、ミーティングという形に変わって続けている。僕は今5ヶ月だけドクスリが自然に止まっている。

失ったものを何一つ取り戻していないけど、新たに手にしたものもある。あえてここには書かないけれど、それはこれから僕が生きていく上でとても重要なものであるように思う。

### 施設長から御礼とお願い

こんにちは、日本ダルク アウェイクニングハウスの山本です。春を迎え桜の花が咲く季節になりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか？藤岡は4月に入ってから雪が降る日があり、まだ肌寒い日が続いております。これから暖かくなって来ることを待ち望んでおります。

私たち日本ダルク アウェイクニングハウスでは、今年に入りスタッフの数を増員しました。現在はスタッフ研修を含め、5人のスタッフが常に在駐しております。また今月からプログラムとして、沖縄の琉球太鼓(エイサー)を行う予定です。

さて、前回もこの紙面をお借りして皆様に献金のお願いをさせていただいたところ、全部で92,000円の献金が集まりました。皆様の温かいお心遣いに深く感謝いたします。これらの献金は防火シャッター等の点検、設備費として大切に使用させていただきました。本当にありがとうございました。また食料品の献品もいただきました。重ねてお礼を申し上げます。

毎回のお願いとして心苦しいのですが、今現在私たちの施設の現状として、汚水の汲み取り、下水道、浄化槽の修繕、エレベーターの点検等、深刻な問題があります。これらの事は私たちの力だけではどうにもなりません。誠に勝手なお願いばかりで申し訳ありませんが、是非私たち日本ダルク アウェイクニングハウスに皆様のお力を貸してください。

今後はエイサーのプログラムを通して、精神的な回復及び肉体的な回復を目指し、近い将来に皆様方に披露出来ることを望んでおります。どうかこれからも私たち日本ダルク アウェイクニングハウスの活動にご支援、ご協力をお願い申し上げます。

2007.4.11 日本ダルク アウェイクニングハウス 山本 大

#### 《献金をいただいた方》

牧野滋子様、濱田恵美様、イグナチオカトリック教会、マヌエル・エルナンデス修道士様、佐久間清子様、西村春夫様、鈴木敬子様、都筑義明様、加藤ちえみ様、深野圭介様 順不同

#### 《献品をいただいた方》

メンテナンス・山本様、猿渡順一様 順不同

### 献品のお願い

中古のワゴン車 1台・・・これがあると入寮定員が4～5名増えます。  
掃除機 数台・・・施設をきれいにするために必要です。

## アパリ会員募集・会費納入のお願い！

平成19年4月より新規会員(正会員・賛助会員)を募集いたします。ご入会していただいた方には、会報「フェローシップ・ニュース」を毎月お送りします。また、書籍購入の割引や公開講座・フォーラム、自助グループ開催に関する情報提供等、様々な特典がございます。正会員になられた方の特典は、年に一度開催される総会に参加し、意見を述べる事ができます。

アパリは立ち上げて8年目に入った組織です。今後も、薬物関連問題の新たなシステムとネットワーク構築のために全力を尽くしていく所存です。APARIに関するご意見ご要望がございましたらいつでもご連絡ください。

【年会費】正会員：12,000円 賛助会員：6,000円(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

【郵便振替番号】0160-7-136870 【加入者名】アパリ東京総本部

#### 新規会員

正会員・賛助会員の新規申し込みの方は、郵便局にて上記郵便振替番号をご記入の上、正会員・賛助会員の種類、住所、氏名をご記入いただき会費を納入していただくと、アパリの会員として登録されます。

#### 継続会員

継続会員の方で平成19年度分の会費をまだ納入されていない方は、ただ今更新の時期ですので納入をお願いいたします。



各部屋の窓辺にはプランターがあります。



日本庭園を造っているところです。



スタッフ全員集合。  
左からタイガー、リキ、山本施設長、カメ、ヒデオ。



琉球太鼓(エイサー)の演奏。右が山本施設長



特定非営利活動法人  
アジア太平洋地域アディクション研究所

### アパリ東京本部

〒110-0015  
東京都台東区東上野6-21-8  
電話：03-5830-1790  
FAX：03-5830-1791  
メールアドレス：info@apari.jp

### アパリ藤岡研究センター

(運営：日本ダルク アウェイクニングハウス)  
〒375-0047  
群馬県藤岡市上日野2594番  
電話：0274-28-0311  
FAX：0274-28-0313

#### 【入寮条件】

- 1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
- 2、男性(年齢制限なし)

#### 【入寮期間】

基本的に13ヶ月

#### 【入寮費】

月額16万円 (初回17万5千円、生活保護の方も可能)



ホームページもご覧ください  
(新しくなりました)  
<http://www.apari.jp/npo/>

発行者：近藤恒夫  
編集責任者：志立玲子  
平成19年5月1日発行  
定価 1部 100円

## <アパリの司法サポート>

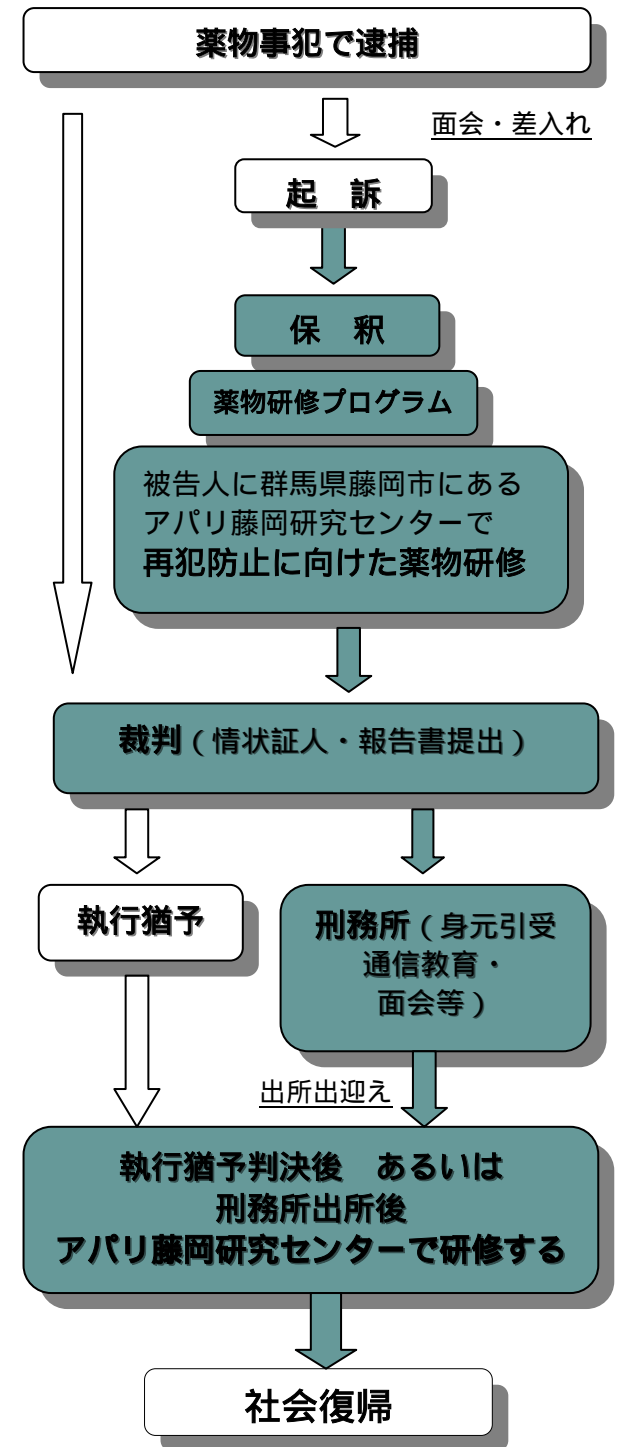
《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は**5%以下**です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用：コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です]【お問合せは東京本部まで】

## アパリの支援



## <家族教室>

### 「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

	日付	体験談(30分)	テーマ
対象：薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者 日時：第1・第3月曜日 18:30~20:30 場所：アパリ・クリニック 上野2階 参加費：3,000円 【お問合せは東京本部まで】	5月21日(月)	ジュン(NAメンバー)	回復と仕事
	6月4日(月)	ピー子(DMC・スタッフ)	進行性の病気
	6月18日(月)	秋元恵一郎(東京ダルク・スタッフ)	依存症は治るのか?
	7月2日(月)	入寮者を予定	未定
	7月16日(月)	古澤清一(アパリ・スタッフ)	ダルクでの20年

## <個別相談・カウンセリング>

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など。出張カウンセリングは相談の上、実施可能かどうか判断させていただきます。(料金は別途必要)

【費用】45分 9,000円 【場所】アパリ東京本部 501号室

【カウンセラー】町田 政明 [元神奈川県立せりがや病院のケースワーカーとして活躍、ホープヒル代表、寿アルク理事]

【予約】電話でお申し込み下さい。03-5830-1790

【注意事項】当日のキャンセルや変更の場合は全額いただきます。遅れていらした場合は時間が短くなりますのでご了承ください。